

うるわし通信



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

令和8年5月

纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想まとまる —パブリックコメント提出者として—

桜井市が策定を進めてきた「纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想」が、このたび取りまとめられました。纏向遺跡は、古代史研究において全国的に注目される重要な遺跡です。

今回の構想には、歴史遺産を守りながら地域の魅力と暮らしやすさを高めるため、散策ルートの整備、景観への配慮、来訪者を迎える拠点づくりなど、地域全体の将来像として市の方向性が示されています。

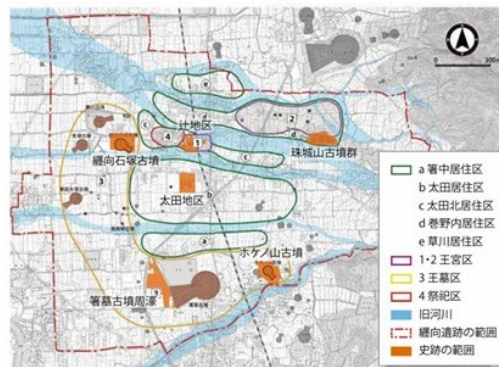
うるわしの桜井をつくる会は、堀井理事長と私も市民としてパブリックコメントを提出しました。

その主な内容は、

- ①纏向遺跡は発掘が進んでおらず、30年後を目途とした「全容解明の発掘計画がイメージ出来る」「構想」を持って欲しい。（纏向学の長期ビジョン）
- ②「基本構想」が具体化されるタイムテーブルを明示すべきである。（中期ビジョン）
- ③市役所で全庁的に取組む必要がある。（プロジェクトの立上げ）
（駅前整備・道路整備・公園整備等のハード事業と、観光・文化財等のソフト事業）
- ④発掘にともなう本物（実物）の展示をガイダンス施設「交流館（仮称）」でおこなって欲しいこと 等々

但し、これらの提言については、今回の「基本構想」では、十分に反映されているとは言えず、「今後の整備計画」の策定や「保存活用計画書」の見直しの際に、今回のご意見を参考にするとのが、市の見解となっています。

纏向遺跡の構成



【将来イメージ図】

“歩いて学べる遺跡”を視覚化

散策ルートの流れ

案内サインのデザイン例

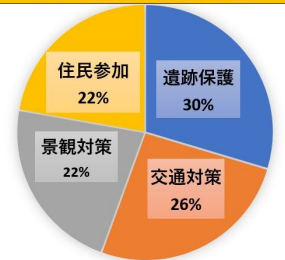
休憩スペースや眺望ポイント



パブリックコメントには27件の意見が寄せられました。遺跡保護への期待、交通アクセス改善、住民参加の仕組みづくりなど、多様な意見や提案がされていることを確認できました。さまざまな意見が出されており、市民参加の意義を実感しました。

今回の「基本構想」は、今後の具体的な整備計画や地域との協働の基盤となる重要な指針ですので、歴史を大切にしながら、地域の暮らしやすさや魅力を高めていくためには、市と市民が継続的に意見を交わし、同じ方向を向いて進むことが欠かせません。修正後の構想は市ホームページで公開されています。ぜひ多くの市民の皆さんに目を通していただき、纏向の未来をともに描いていきたいと思っております。

パブリックコメントに寄せられた意見



現在、「飛鳥・藤原の宮都とその関連群」（橿原市、桜井市、明日香村）が世界遺産登録に向け終盤の時期を迎えていますが、纏向遺跡は、それに先立つ日本の国づくりが始まり、東アジアとのつながりを持ちだした時期の遺跡でもあり、日本古代史の解明につながる重要な価値を持っています。このことを、広く伝えると共に、地域保存と併せて文化・観光資源としても活用していくまちづくりが、進められようとしています。

基本構想で示されている遺跡の活用についての記載

【遺跡の活用】

纏向遺跡の活用に向けて、以下の方向性及び活用方法が示されている。

●遺跡の活用の方向性

1. 「ヤマト王権成立の地」をアピール
2. 纏向遺跡の全容を公開
3. 教育的活用
4. 地域コミュニティと活用
5. 「歴史文化の保全」と「景観保全と活用」
6. 観光的活用

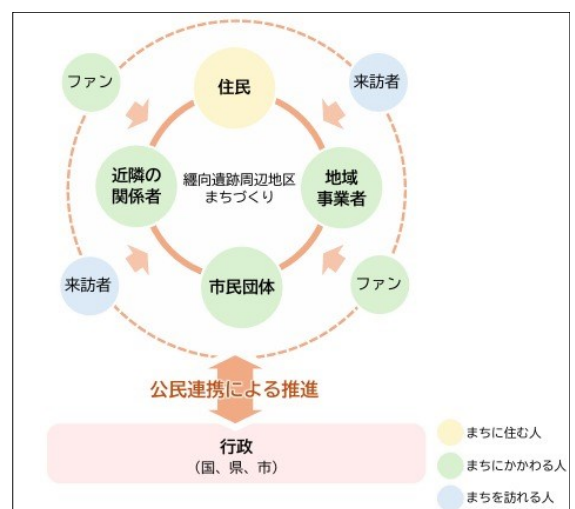
●遺跡の活用方法

1. 拠点施設の整備
2. サテライトと回遊ルート
3. 市民との協働
4. 情報発信

今回の「基本構想」の公表を機に、巻向校区は勿論、市内でも関心を持たれる住民や市内外の関係者等とも連携を持って、学習の場づくりや、学校教育を通じた次世代への地域学習の一層の推進が期待されます。

併せて、「基本構想」が早期に具体化されると共に、その為にも本会やパブリックコメントに寄せられた市民からの提起した事項などを引き続きさまざまな機会を通じて、市役所はもとより関係機関（国・県・NPOなど）に働きかけていくことが重要です。

【編集子 楠木】



【桜井市政施行70周年へのメッセージ】

市政が施行される70年前の昭和31年(1956年)は桜井市護国神社が創建された年でもあります。先の大戦で国家のため尊い命を捧げられた1,860余柱の英霊をお祀りするため、殉国碑が先ず建立されました。その後、立派な社殿が整えられ昭和37年(1962年)には宗教法人として奈良県より認証されました。以来、桜井市遺族会及び奉賛会が母体となり今日に至るまで、春季大祭・終戦記念慰霊祭・秋季慰霊祭を中心に祭事が営まれ国家鎮護、地域の護り神として信仰を集めて参りました。

また同昭和37年(1962年)は穴師の相撲神社において大鵬・柏戸の両横綱が土俵入りした記念すべき年であり、それを契機に桜井市と大三輪町が合併し現在の桜井市の原形が出来上がる事となりました。

さらに10年後の昭和47年(1972年)には保田與重郎先生の肝煎りにより「日本の芸能発祥の地」としての土舞台を顕彰する会が発足し、今年で創立54年を迎えることとなりました。

こうした地域が持つ歴史と文化土壌により、我が市は発展を遂げてきたと言っても過言ではありません。今後もこれらの顕彰を継続するとともに、希代の偉人など、まだまだある顕彰への取り組みを我が市の発展の基盤としてはどうかと提言致します。

とみ
佐藤高静（等彌神社宮司）



桜井市護国神社



相撲神社の力士像



土舞台顕彰碑

等彌神社境内の歌碑



碑文
射目立て、跡見の岳邊の
なむ 奈良人のため われは行き
歌人 紀朝臣鹿人



碑文
妹か目を 始見の崎の 秋はぎは
此月ごろは 散りこすなゆめ
歌人 大伴坂上郎女



碑文
うかねらふ 跡見山雪の いちしろ
く 恋ひば妹が名 人知らむか
歌人 詠み人知らず

うるわしの桜井をつくる会 理事会・総会開催について

第16回定時総会を下記の通り開催させていただきます
皆様のご出席をお待ちしています。

- 理事会 6月 7日(日)13:00～ 桜井市まほろばセンター 交流室
- 総会 6月21日(日)13:00～ 桜井市立図書館
- 上映会 6月21日(日)14:30～ 「MINAMATA-ミナマタ-

アメリカを代表する写真家の一人ユージン・スミスは、熊本県水俣市にあるチツソ工場が海に流す有害物質によって苦しむ人々を撮影してほしいと頼まれる。水銀に冒され歩くことも話すことも出来ない子供たち、激化する抗議運動、それを力で押さえつける工場側。追い詰められたユージンは、水俣病と共に生きる人々にある提案をし、彼自身の人生と世界を変える写真を撮る――

問合せ先 ひがし ☎ 090-3652-8104

桜井図書館友の会

日時：令和8年6月27日（土）午前10時～12時
テーマの本：「夢十夜」 夏目漱石（著）
場所：桜井市市民活動交流拠点会議室（エルト桜井2階内）
問合せ先 南部 ☎ 0744-43-5949
会員以外の参加も歓迎します。



編集後記

4月の新年度以降、市行政においても市政70周年への取組みについて様々な提起がされだした。本会はこれまで70周年に向けて、少子高齢化が急速に進行する桜井市における諸課題を明らかにし、併せて今後のまちづくりを進めるための提言をおこなってきた。纏向遺跡を核にした取組みもその重要な柱として、市内外の幅広い世代に理解と参加を通じた協働のまちづくりを強く期待する。

うるわしの会総会後に、映画「MINAMATA」を上映する。桜井市誕生の時期である1950年代後半から70年代に企業利益を優先した深刻な健康被害が、「水俣病」（熊本）「新潟水俣病」「イタイイタイ病」（富山）「四日市ぜんそく」（三重）の四大公害病と云われているが、いまま認定を巡る裁判や救済を求める活動がおこなわれている。環境汚染は、地球温暖化・気候変動となって地球規模での問題点となっており、身近に寺川でのPFAS（ピーファス）や、ごみ焼却場でのダイオキシン等の基準値を上回る検出など、無関心でおられない状況となっている。次の世代に安全で安心できる地域社会を伝えていくためにも、グローバル（地球規模で考え、地域で活動する）の取組みが一層必要となっている。（編集子 楠）

うるわし通信発行人
ひがし俊克
TEL:090-3652-8104